



## 女性建築士の集い2015in室蘭

室蘭支部 吉田 幸恵

去る7月25日、港まつりで賑わう室蘭で女性建築士の集いを行いました。業務等でお忙しい中、全道各地の女性建築士の皆さんなど総勢24名のご参加をいただきました。

登録文化財に指定を受けた旧室蘭駅（現、観光協会）のホールにて、室蘭工業大学の歴史的建造物の研究をされている助教武田明純先生より『室蘭の歴史的建造物について』のご講演を拝聴しました。室蘭には、大黒島灯台、日鋼のレンガ工場群など様々な歴史的建造物が50箇所以上あり、まだ発見されていない建物などが多くあるということを知りました。

講演のあとは街歩きだったので、当日は生憎の雨。前日まで快晴だったのに…。私の日頃の行いでしょうか…。

街歩きは旧室蘭駅からスタート。私が案内をさせていただきました。

した。旧室蘭駅の正面にある金港ビルでは、数十年前、建物のそばに出ていた湧き水で『金港サイダー』が製造され、市民に愛されていたという話。解体が決まってしまった長谷川貿易ビルのこと。日本一の坂の名前がついた由来などを説明いたしました。



木骨レンガ造の山口紙店では内部見学も受け入れてくださり、ご主人が子供の頃から昼夜問わず働いた、という思い出も語っていただきました。また、当時の室蘭は大変景気がよく、仕舞いきれないほどの売上金が入っていたという家紋入りの立派な金庫や大黒柱などを見せていただきました。

最後にお伺いしたのは、鯨八幡の愛称もある室蘭八幡宮です。こ

こは、明治元年に崎守町という今の場所とは別の町に創立されました。札幌本道の完成により新室蘭に移転となった際、社殿造営の建設費が不足。しかしながら、たまたま寄り鯨があり、開拓使に払い下げた売却金で建ったことからその愛称で呼ばれるようになったのだそうです。他に、社殿は流れ造であること、本堂に使用されている木材を売ってほしいと木材屋に持ち込まれた裏話など、普段聞けないような話が聞けました。

宮司さんは、室蘭の文化財審議委員のご経験もあり、建築の知識にもあかるく、『専門家として質問はありませんか?』という宮司さんからの問いにはこちらが困るほどでした。室蘭の地名の由来は、坂の多い街：モルラニエというアイヌ語から来ています。ただでさえ坂が多い道中、八幡宮への階段は200段ありました。足元が悪い中登ってくださったことに感謝しています。

今年参加された女性建築士の皆さんは、来年、室蘭での全道大会も親しみを持って来蘭されて下さることと思います。



## 連載第3回(全4回) ライフオーガナイザーについて

1級建築士・ライフオーガナイザー  
函館支部 岩崎 美乃

仕事や家事に追われて、時間が足りない!と思うことがありますよね。時間は見えないし、捉えどころがありません。でも、足りない時間は洋服がギュウギュウ入ったクローゼットと同じなのです。

そんな時間の整理のお手伝いをするのもライフオーガナイザーのお仕事です。

まずは、普段何気なく過ごしている時間を目に見えるようにすることから始めます。使うのは、円や帯のグラフ。小学生の夏休みの時間割表を覚えていますか?

睡眠、仕事、通勤時間、食事やお風呂、歯磨き、身支度などの時間をその中に書き入れてみます。

どんな「こと」を「いつ」しているのか、目にみえる形にすることで優先順位を決め、自分に残されたエネルギーを考えることが時間の整理に効果的なのです。

時間の整理は行動の整理!今日の自分が明日の自分とつながっています。なりたいたい自分につながる時間を作ること!それを意識することが大切です。

次回は情報についてです。

